

北村新司市長の所信表明

(紙面の都合上、12月定例会で行われた演説の一部を掲載します。)

私は、「活力と希望あふれる八街」を創るため、8つの街づくりを政策目標に掲げました。市民の参画と協働のもと、着実に取り組みを進めてまいります。

具体的な市政運営の概要について申し上げます。

北村新司市長▶



一つ目は、健全財政を堅持する街づくりです。

限られた財源を効率的で効果的に活用する行財政改革を進め、市民の満足度の向上を図ってまいります。本市では、これまでも人件費総額の抑制を図ってまいりました。今後も職員の適材適所な配置を行い、簡素で効率的な行政運営を目指してまいります。また、財政面においては、歳入の確保はもとより歳出面においても総見直しを行い、受益者負担の適正化を含め、さらなる行財政改革を推進してまいります。

二つ目は、子育て支援充実の街づくりです。

児童医療費助成を、現在小学校6年生まで行っておりますが、早期に義務教育である中学校3年生まで拡充いたします。また、働くお母さんを支援するため、保育園の待機児童解消に積極的に取り組んでまいります。

三つ目は、安心で安全な街づくりです。

まもなく完成いたします駅前交番をはじめ、安心で安全な街づくりには、警察力は必要不可欠であり、早期の八街警察署設置を目指してまいります。また、市内の交通渋滞緩和のため、八街バイパスの早期完成と、市内道路交差点に右折車線設置を計画的に推進してまいります。

四つ目は、便利で快適な活気あふれる街づくりです。

今後は、朝夕の快速電車の増発を目指し、通勤通学者の利便性の向上を図ってまいります。また、榎戸駅につきましても、東口の開設に向けJRとの交渉を開始しており、早期開設に向け取り組んでまいります。

五つ目は、子どもたちの教育環境の整う街づくりです。

朝陽小学校の校舎建て替えは、早期に実施すべきものと考えております。また、耐震補強すべき校舎についても、計画的に実施計画を立て、取り組んでまいりたいと考えております。

六つ目は、健康と思いきやいあふれる街づくりです。

新たに、人間ドック検診の費用助成について検討し、健康保持・健康増進を図ってまいりたいと考えております。また、女性特有のガンの一つであります、子宮頸がんにつきましても、ワクチンにより予防できる唯一のガンと言われており、早期にワクチン接種時の費用助成を検討してまいります。

七つ目は、農業・商業・工業を大切にす街づくりです。

JA等関係機関と連携して、八街産にんじんのブランド化や、落花生・里芋を使った産地グルメの推進をしてまいります。また、商工会議所と連携し、駅周辺の空き店舗を活用した賑わいを創設できる施設整備や、地元業者の受注機会の拡大を図るなど、農業・商業・工業が活気ある街づくりを目指してまいります。

八つ目は、高齢者がいきいきと生活できる街づくりです。

一人暮らしの高齢者世帯への訪問制度を確立し、安否確認や高齢者の相談相手となれるような制度を構築してまいりたいと考えております。

市議会議員補欠選挙 当選議員の紹介

石井孝昭議員

昭和45年10月29日生
文教福祉常任委員会
議会だより編集委員会



常任委員会委員の所属変更

小澤定明議員

文教福祉常任委員会→総務常任委員会
(総務常任委員長に就任)

加藤弘議員

経済建設常任委員会→文教福祉常任委員会

平成21年度決算が認定されました！

決算審査特別委員会により審査された平成21年度の各会計の決算が、12月14日にすべて認定されました。(紙面の都合上、決算審査特別委員会で行われた質疑の一部を掲載します。)

問 平成21年度は、八街市の集中改革プランの最終年度であったが、この行財政執行に対してどのように評価されるのか伺う。

答 集中改革プランにつきましては、平成17年度から21年度までの5カ年という計画期間のもとに、その推進に努めてきたところであります。全体的に目標額として25億円を目指して、この5年間、行財政改革の取り組みをしてきたところであります。最終的には、その目標額を若干上回る105%程度の達成率になりました。一定の成果があったものと認識しております。

◆歳入決算額	193億1309万7055円
◆歳出決算額	185億3595万8876円
◆財政調整基金への積立額	3億1400万円
◆平成22年度への繰越額	1億22万9179円

一般会計

問 障害者福祉のうち、幼児ことばの相談室運営費について、平成21年度は、相談・指導延べ人数が1千322名、相談・指導件数が194件という報告がなされているが、これは平成20年度と比べてどのような傾向があるのか。

答 平成20年度では、件数が194件、延べ人数で1千177人です。平成21年度は件数は194件で変わりありませんが、延べ人数は1千322人と増えています。

問 消費生活対策費について、消費生活苦情相談には平成21年度は主にどのような相談が寄せられていたのか。

答 平成21年度の相談件数につきましては379件であり、平成20年度と比較しますと89件、30・68%の増となっております。平成21年度の相談内容につきましては、多重債務、架空不当請求、クーリングオフを含む解約、契約不履行に関するトラブル等が多く、全体の35%を占めております。



国民健康保険特別会計

◆歳入決算額	76億2550万9586円
◆歳出決算額	77億7827万5769円
◆平成22年度歳入からの繰上充用額 (歳入不足の補てん額)	1億5276万6183円

問 平成21年度は赤字決算となっていました。この中で、平成23年度に向けて国保行財政運営をどのように進めていこうとしているのか。

答 歳入部門では、非常に厳しい状況の中で、今の予想からしますと、平成23年度も調定できる賦課額が下がってくるだろうというなかで、収納率を確保するということが非常に厳しい状況であります。

ただし、プラスの要素として、調整交付金のペナルティーが課せられていたものが、今年中に千葉県の支援対策を国に上げることができ、なくなるというところがあると考えています。

歳出の面では、保健事業や、健康管理部門の健診等を充実させるということと、医療費の削減に努めていきたいと考えております。

を充実させるということと、医療費の削減に努めていきたいと考えております。

後期高齢者医療特別会計

◆歳入決算額	3億2452万3083円
◆歳出決算額	3億1938万9665円
◆平成22年度への繰越額	513万3418円

問 平成21年度において、普通徴収の収納率はどのくらいだったのか。

答 普通徴収で94・8%であります。

湯浅決算審査特別委員長



介護保険特別会計

◆歳入決算額	29億327万7109円
◆歳出決算額	28億2118万2640円
◆平成22年度への繰越額	8209万4469円

問 特別養護老人ホームへの入所希望者は、直近でどのような状況になっているのか。

答 平成22年7月1日現在で150人です。

学校給食センター事業特別会計

◆歳入決算額	7億5774万2374円
◆歳出決算額	7億2353万2758円
◆平成22年度への繰越額	1593万4616円

問 給食事業費のうち、調理場給食事業費については、前年度よりも増えています。

調理場給食事業費については、前年度よりも増えています。

るが、そういった点では、本当に委託が安上がりだったのか大疑問を持つところである。特に調理業務委託に関しては、調理業務の委託になる前との比較ではどうだったのか。

答 平成20年度から平成21年度の人件費総額につきましては、18万6千234円減額になっております。

下水道事業特別会計

◆歳入決算額	7億5881万1757円
◆歳出決算額	7億3384万8355円
◆平成22年度への繰越額	2496万3402円

問 低落札をした業者に対して、健全な事業ができていないのか、事業実績はどうなのか、といった点検が必要ではないかと思われるが、如何か。

答 その事業ごとに監督員を置き、監督しております。

また、工事の完成時には財政課長が指名した検査監

水道事業会計

◆収益的収支	
・水道事業収益	11億2554万7279円
・水道事業費用	10億8991万5036円
◆資本的収支	
・収入総額	1億5994万6388円
・支出総額	3億4340万4965円
・収入額が支出額に対して不足する額	1億8345万8577円は、過年度分損益勘定留保資金等で補てんする。

問 平成21年度給水停止世帯は何世帯くらいあり、また、対象世帯はどのくらいあったのか。

答 平成21年度の給水対象件数は1千411件で、そのうち実際に給水を停止したものは、246件であります。平成20年度と比較しまして、実際の数は減少しております。

